

宮沢賢治が夜空に輝く星々を描く時、彼の心の奥には必ず唯一無二の友人・
保阪嘉内の姿がありました。「銀河鉄道の夜」に描かれる銀河を走る鉄道や、「風の
又三郎」を生んだ三郎信仰。「春と修羅」の修羅という存在。これらは全て保阪との
交流の中で知り生まれたものでした。

今回の作品はこの二人の友情を通して、「よだかの星」の物語を軸に、「銀河鉄道の夜」
に描かれるジョバンニとカンパネルラが誘う賢治の宇宙を描きます。朗読と独自の
手法を用いた影絵を支える音楽には邦楽器（箏・横笛・太鼓）とヴォイスを用い、
作り出す旋律やハーモニーの世界観は洋の東西に
とらわれないものとなっています。



和田 啓
(台本・音楽・演出)

幼少の頃から学んだ江戸里神楽をもとに独自の音世界を表現する
アジア系ハンドドラム奏者、作曲家。1990年にバリ島に渡り、
民族音楽であるガムランを学ぶ。のち、アラブ古典音楽において
重要な位置を占める打楽器レク(アラビックタンバリン)をエジ
プト・カイロにてハニー・ベダールに師事。現在はメイン楽器と
して演奏している。作曲家としての近年の主な作品には2010年
「現代狂言Ⅳ・コンカツ」(作・演出/南原清隆、野村万蔵ほか)、
2012年「朗読劇・天守物語」(演出/野村万蔵、天守夫人/松坂
慶子)、2013年能登演劇堂ミュージカル「たぬき御殿」(演出/
原田一樹)、2014年俳優座70周年記念公演第一弾「東海道四谷
怪談」等がある。

2009年度より船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザー。



多和田さち子
(朗読)

学習院大学大学院人文科学研究科博士課程修了。2005年より
文学作品の舞台朗読を中心に活動。2008年舞台経験者のための
朗読勉強会 Reading Notte を立ち上げ、作品分析や朗読技術
の研鑽に努める。2009年から Reading Notte 公演『朗読夜会』の
構成・演出・出演を重ね、2018年6月『朗読夜会第七夜〜国貞え
がく〜』に至る。観客参加型の試演会『ちょっと聴いてみよう』会も
9回を数える。邦楽ノートには2014年度から朗読者として参加。
Reading Giorno 代表、ユニット詩音〜うたね〜、朗読サークル彩
所属。朗読講座講師。広島演劇協会会員。

特別出演：
松本泰子(ヴォーカル)

ジャズヴォーカリストとして活動中、1990年を境に様々な民族音楽と出会う機会に恵まれる。その中から自分の生まれ育った風土をもう一度自分の声で表現しようと、ジャンルにとらわれず日本の童歌・民謡をはじめアラブ古典、そして自らの作詞作曲によるオリジナル等も手掛ける。
近年は演劇やミュージカル俳優のヴォイストレーナーとしても高く評価されている。

「ノートジャパンの邦楽ノート」は、邦楽(日本の伝統音楽)の魅力
をプロの演奏と斬新な切り口で紹介するサロンコンサートとして
2000年にスタートしました。2016年度からは地元有志を中心に
文学作品の朗読・影絵・邦楽の生演奏でひとつの舞台作品を作る
試みを続けて参りましたが、今年度をもって20年間の活動に区切
りをつけることになりました。

これまで邦楽ノートを応援していただきました全ての皆様に感謝
申し上げます、最終公演を精一杯務めさせていただきます。(伊藤多喜子)

宮沢賢治「よだかの星」より

星そのときは輝く、

影絵・朗読・邦楽による

和田裕太(賢治)

劇団青年座所属。日本大学芸術学部演劇学科演技
コース卒業。近年の主な出演作品：2015~17年
『からゆきさん』・紀伊國屋ホール/全国公演、
2017年『真田風雲録』[青年座スタジオ公演]
・青年座劇場。

